

おなか 内科 東白壁クリニック

上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）におけるピロリ菌検査で 偽陰性となる可能性のある薬剤

ピロリ菌のウレアーゼ活性に影響を与える薬剤を服用していると、ピロリ菌が存在していても、検査結果で存在しないと判定される可能性があります（偽陰性）。

●偽陰性を生じる可能性のある薬剤

1. プロトンポンプ阻害薬（PPI）

タケプロン、オメプラゾール、ランソプラゾール、タケキャブ

2. 抗生物質全般

3. 胃粘膜保護剤

アルサルミン、ガストローム

4. ビスマス製剤

次硝酸ビスマス

上記の薬剤を服薬中または服薬中止直後では偽陰性になる可能性があるため注意が必要です。服用を中止し、4週間以降（最低でも2週間後）で内視鏡でのピロリ菌検査を受けるようにしましょう。

●判定に影響を及ぼさない胃粘膜保護剤

ムコスタ、セルベックス、アルロイド G、マーズレン、ケルナックスなど

上記の薬剤は服用中止する必要はありません。